

きらめき人

集う、企業家たち

奥入谷で輝く笑顔、老人クラブリーダー意気盛ん！

阿部 忠雄さん



自身も卒業生の一人として、閉校後も校舎を活用する取り組みに尽力。地域づくりにも積極的な住民のリーダー的存在

TADAO ABE

毎月15日、旧林際小学校（現・校舎の宿さん館）の校庭に歓声が響きます。

地域で暮らしている年配の皆さんが「グラウンドゴルフ」を楽しむため集まってきました。この小学校の卒業生でもある阿部忠雄さんは、何事にも積極的に取り組む性格で、数年前から入谷十区老人クラブの会長に推され活躍されています。写真でも分かるように笑顔の素敵な「きらめき人」なので、皆さんから慕われているのでしょうね。

「十区では、還暦を過ぎれば自動的に俺たちの仲間だ」と豪快に笑いながら入会を勧めます。恐る恐る老人クラブというネーミングに抵抗があるのですが、「躊躇していると「そっくだよな。だからここでは『清流会』と名前を変えたんだ。ほれ、一緒にプレイするぞ」

人口減少が懸念されている中、地域全体が転入者を歓迎しているので、おのずと老人クラブいや「清流会」としても入会を積極的に受け入れていくとのこと。

「年を取ったからって暇な人はいない。結構いろんな活動や仕事があるから、月に一回くらいしかやれないけど、みんなこれを楽しみにしているんだ」

会員の意見をしっかり聞きながら、笑顔絶やさず引っ張って行く姿は、実に頼もしく見えます。

地

域おこし協力隊の制度を用い、さまざまな起業家の誘致に取り組む南三陸町。現在8人在籍する協力隊員と、事業を共に深めていく地域のパートナー事業者、そして協力隊事業の導入主である役場との間に立ち、調整役を担うのが株式会社ESSCA「事業コーディネーター」の鈴木麻友さん。平成29年10月に、勤めていた大手メーカーの技術営業職を離れ移住してきました。

協力隊メンバー全員での合同ミーティングを隔週で企画し、おのこの活動状況や学びの共有、メンバーがより活動しやすい環境整備に向けたアイデア出し、時にはメンバー同士のコラボレーション企画の検討なども行います。また、メンバーそれぞれと一対一の個別ミーティングも定期的に実施し、プロジェクトの進捗やスケジュールの確認、課題の整理、地域の情報共有などを実施。8人の協力隊メンバーたちは、取り進むプロジェクトもさまざまであれば人間性も十人十色。個性豊かなメンバーそれぞれと、それぞれに適した接し方のできるの、まさに明るい麻友さんの人柄のなせる技です。

「同時に複数の人々と協働しながら人や事業を作り上げていくには、前職の時とは違う頭の使い方が必要などところもあり、日々試行錯誤の連続。けれど、その一つ一つがこの町の未来につながっていくと考えるととてもわくわくします！町の都市計画やまちづくり・ひとつづくりに関わることで町の土台を作り、いろいろな人が向上心を持って活躍できる地域を作りたいです！」と麻友さんは話す。

MAYU SUZUKI



ボランティアで初めて訪れたバイサイドアリーナ。今では体力づくりに通っています。

いろいろな人が活躍できる土台を作りたい

鈴木 麻友さん